

ービスも行っている。ACEは大学という場での学習に限定されずに、多様な継続教育における学習成果を大学教育における単位として認定するための支援を行っているといえよう。

なお、情報技術（IT）を活用した学習機会の提供については、遠隔教育の方法の1つとして注目しており、スタッフやインストラクターに対するワークショップを実施しており、そのほかIT導入による遠隔教育の問題点を指摘するなどの政策提言も行っている。

5. 国際継続教育訓練協会 (International Association of Continuing Education and Training, IACET)

IACETは1968年に「継続教育単位(CEU)カOUNシル」として設立され、1990年に現在の名称に名称変更を行った。全米に限らず国際的な次元を視野に入れた継続教育単位システムに関する中心的な団体のひとつである。

CEUは10時間の学習について1単位という認定方法が一般的であるが、全米レベルでの統一基準が存在するわけではなく、学習プログラムの提供者がそれぞれ独自に単位を認定することができるものである。したがって、多様なCEUの取得数だけでは学習者の学習成果を客観的に判断することはできない。このような状況に対し、IACETは民間団体であるが、学習プログラムの提供者（プロバイダー）が協会のメンバーになることにより、そのプログラムによって取得したCEUの質と標準を保証するという機能を果たしている。そのため、プロバイダーの入会にあたっては審査を行い、またプログラムの質的水準の維持・向上に関するセミナーや研修を主催している。基本的にCEUはプロバイダーが内容や単位数を決めるものであるが、IACETはCEUのレベルの確保、並びに標準化をめざしているといえる。

従来、職業能力の証明は定められた試験に合格することによって認められていたが、CEUの導入によって、たとえ1日のセミナーやワークショップへの参加であっても、たとえば5分の1単位などと細分化して認定することが可能になる。そしてこれらの累積を評価することは、転職に際しての職業能力の証明となる。また、同じ職種を続けていく場合であっても、「資格」を5年更新などとして、その5年間の間に一定のCEUを取得させることにより、継続的な職能向上が期待でき、能力向上のための研修に対する従業員のインセンティブを高めることにつながると考えられている。

新しいメディアを利用した遠隔教育に関しては、対面による学習プログラムではないことから、学習者の孤立感や学習の継続性に難点があり、遠隔教育における人間的なふれあいの維持が課題であることが指摘された。